

令和3年度 まちづくりトーク 主な意見

開催日： 11月16日(火)

会 場： 布野生涯学習センター

1. 地域の防災

項目	参加者の発言	市の発言
防災活動	<ul style="list-style-type: none"> ・上布野自治会は、防災訓練を2018年から4回実施した。1回目が120名、2回目は127名が参加し、昨年度の3回目はコロナ禍の中でも役員向けの訓練を市から職員に来ていただき実施した。今年度は自分たちで訓練を行った。 ・段ボールのパーテーションの設置が難しいため設置をせず、ワンタッチパーテーションを設置し好評であった。物資の点検簿を作成し、1年に1回は点検をしている。また、防災に関するチラシを作成して、住民に啓発している。チラシを配布することにより防災意識の高まりを期待している。 ・布野小学校から訓練指導の依頼があり、今年は小学校5年生の避難訓練授業を行った。 ・各地域のハザードマップを作成し、全戸に配布している。 ・市の危機管理課を呼ばなくても自分たちでできるよう工夫していきたい。 	<ul style="list-style-type: none"> ・「自分たちの地域は自分たちで守ろう」という意識で動かれていることは、行政にとって心強く、上布野自治会のような意識の高まりは、三次市全体の防災意識の向上につながる。防災意識を高める方法の1つとして、関係機関と連携した避難訓練を実施している。来年は、昭和47年水害から半世紀になる大きな節目であり、地域の皆さんに三次市の災害リスクについて情報発信して、防災・減災への対応を継続的に進めたい。 ・布野川の堆積土砂の撤去など、できるところから事業を地道に行う。国も国土強靱化基本計画として防災・減災に対する予算を付けている。地域の皆さんと協議をしながら、今後の対応をしていく。 ・段ボールパーテーションは、設置しにくく評判がよくないが、今後も活用していく。チラシでの周知活動は素晴らしいので、参考にさせていただく。
避難所	<ul style="list-style-type: none"> ・基幹避難所は布野生涯学習センターホール、補助避難所は町内に5箇所ある。補助避難所のうち4箇所は公共施設なので備品がある程度整備されている。残りの1箇所は地域の集会所であり、投光器や発電機などの備品がないため、今年度の補助金を活用して整備した。今後は避難訓練を実施することや、防災士を活用し講習を行うなど、訓練の質を上げるソフト面の向上に取り組んでいく。 ・市では要支援者名簿を作成されているが、自主防災組織・消防団・民生委員などのサポートの役割が違ってくると思うので、連携して役割分担をしながら行っていく。 	<ul style="list-style-type: none"> ・要支援者の件に関しては、市内の各自主防災会に取組をお願いしている。地域に応じて災害リスクは異なっているので、地域の特徴に応じた取組を検討していただきたい。 ・今年の夏の長雨では、補助避難所を複数開設していただき感謝している。布野町では、布野川の水位が災害対策活動の目安となることから、消防団と連絡を取りながら布野川の水位を監視するようにしている。
音声告知放送	<p>音声告知放送の三次市内の普及率を教えてください。音声告知放送からも情報発信をされているが、加入されていない場合もあるので、普及することに力をいれたい。</p>	<p>市内全体で普及率は約40%である。ホームページ、ケーブルテレビ、LINEなどのSNSといった方法で、音声告知放送以外の情報発信の方法も増やしている。幅広い情報発信を行うため、音声告知放送の普及も引き続き取り組む。また、光ケーブルは三次市の大きな情報財産であり、この大切な資源を活用して、市民の皆さんに必要な情報や取組を伝えるよう検討する。</p>
除雪について	<ul style="list-style-type: none"> ・令和2年1月は、近年にない積雪だった。幹線道路は除雪してもらったが、地域への進入路は全くできなかった。そのため、上布野自治会の方々にボランティアで除雪作業をしていただいた。このことから、布野町まちづくり連合会では除雪に係る支援事業の要綱を定め、令和3年度から実施することにした。高齢者や障害者など、その世帯だけでは除雪作業が困難な家や進入路の除雪の支援であり、今後も支援事業に基づいて除雪活動に取り組む。また、除雪機の購入について、コミュニティ助成事業で申請するよう進めている。 ・今回の除雪に関しては、上布野自治会から役員などが自主的に出て、主に高齢者、障害者、女性のための世帯への除雪作業を行った。また、消火栓の箇所も除雪した。そして、除雪が必要な場所や実施した場所についてマップを作成した。マップには、道路上の障害物(水道管など)に関することも追加するようにした。 	<p>布野町の除雪支援については、すばらしい取組である。自分たちの地域を守るための取組として、他地域へも波及してほしい。</p>

令和3年度 まちづくりトーク 主な意見

開催日： 11月16日(火)

会 場： 布野生涯学習センター

2. 持続可能なまちづくりについてなど

項目	参加者の発言	市の発言
まちづくりについて	<ul style="list-style-type: none"> ・布野町まちづくり連合会では、以前は女性の役員もいたが、現在は不在である。また、若い人の意見が反映しにくいと懸念を抱いている。 ・布野町には、銀山街道、中村憲吉記念文芸館、観光リング農園、道の駅など地域資源はあるが、どれも単独であり、今後はこれらを繋げた取組をしなければならないと思っている。人口対策としては、産業を誘致し住宅提供をすることが早いと思う。 ・地元で就職しても、布野町に住まず、三次市街地に住んで布野町に帰って来ないので、跡取りがいない。横谷地区も小学生が2名になっている。 ・利便性を求めて三次市街地へ出ていく方も多い。市の定住対策では、Uターン・Iターンへの支援が中心となっており、地域に残り貢献している住民への支援はない。三次市内在住の高校生が、市内に就職して家を建てる際に補助金をだしたり、奨学金制度の充実や金融機関からの利子補給をするなど、地元に残って活躍したいと考える若い方々への支援をしてほしい。また、できるだけ市役所の採用も若い人を採用してほしい。 	<ul style="list-style-type: none"> ・三次市外に暮らしていても、「三次は今どうだろう」「親はどうしているだろう」と心の中、頭の片隅で考えられる気持ちを育む教育を実践している。事例として、三次市内のふるさと産品を詰め合わせた商品を市外の学生に送る、「ふるさと応援学生事業」を実施したところ、様々な反響があった。ふるさと三次での生活が心に残っているのだと感じた。学生たちがいつか三次市に帰ってくるきっかけになるかもしれない。教育段階から地道に取り組んでいくことで、若者の定住者を増やしていければと思う。 ・19の自治組織ごとに地域分析を行う中で、それぞれの地域の特徴を生かしたまちづくりに取り組んでいく。その取組を検証して、地域の皆さんと連携していく。 ・市役所の採用も、一般の採用だけでなく、Uターン者枠の採用試験を実施しており、市外に出ている人へのアプローチをしている。今後も、三次市に関係する人を増やしながらか取組をしていく。また、三次市内に住まれている皆さんにどうアプローチしていくのか検討をしていく。
赤名峠のトンネルについて	<ul style="list-style-type: none"> ・赤名峠にトンネルはあるが、もう一つトンネルを通してほしい。尾道松江線や主要道路である国道54号が通行止めになったら、移動ができなくなる。 ・以前に、トンネルを掘り換える計画があると聞いた。 	<p>現在、計画はないと伺っている。</p>